明治廿六年七月六日印刷
明治廿六年七月七日發行

婦人衛生雜誌

第四拾四號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衛生雜誌 第四拾四號 目次

講演

◉外科的衛生小言 醫學士 岡田和一郎君

寄書

◉婦人須知 醫學士 賀古鶴所君

衛生叢談

◉浴場行日誌（前号の續） 醫學博士 佐々木政吉君
◉實行を望む
◉ツベルクリンの効力
◉欠伸の効能
◉音樂と病との關係
◉虎列刺病因撲殺法
◉滋養麵包の新發明
◉我國に於ける肉食の程度
◉人造麝香の贋物多し
◉咬傷の藥
◉第一醫院の病室修築
◉監獄と衛生
◉類似コレラは傳染病にあらず
◉虎列刺病
◉ヘルスと牛乳
◉齒痛の藥
◉奇妙なる婚姻式
◉脚氣病と麥飯
◉廣告

大日本婦人衛生雜誌 第四拾參號 目次

講演

◉食物消化の際に受くる滋養品の變化 醫學博士 隈川宗雄君
◉病門の衛生 醫學博士 佐々木政吉君
◉妊婦及産婦の注意 千葉縣産婆學校長高梨美津子

寄書

◉産婦の注意 醫學士 賀古鶴所君

衛生叢談

◉浴場行日誌（前號の續） 醫學博士 佐々木政吉君
◉大日本婦人衛生會例會◉千葉支會◉大日本衛生會役員撰舉◉福岡縣の婦人會◉狂犬病患者の模樣◉吾人は日に「バクテリア」を飲むなり◉壽命と生活の關係◉小供の接吻◉耳病者はおてんばに多し◉洋酒飲む人は注意せよ◉日本赤十字社看護婦生徒◉空氣中の「バクテリヤ」調査◉八十歲以上の日本人◉萬國醫學會の出席者◉総身に三千七十五個の瘤◉京都の虎症◉狂犬病馬に傳染す◉流行病一束數件
◉廣告

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌第四拾四號
（明治二十六年七月七日發行）

講演

外科的衛生小言

醫學士　岡田和一郎君演說

私は外科的衛生小言と云ふ演題で御話しを致します。問題に小言と書いて有りますが、何も皆樣に向つて叱責を申すと云ふ譯ではないのであります。唯衛生上の極く小さい事に就て御咄しを致すので御座います。私は毎も六ヶ敷い問題を掲げて長々しきことを申しますが、今日は極く小さい事を幾つも申上げて皆樣の御清聽を願はうと思ひます。

私の方の領分、即ち外科の方に關係したことで、皆樣が御承知あつて利益のあることは隨分澤山ある即ち平生人々が生活する上に於て知らず識らず外科の病氣に罹つて切塲詰つて無據醫者の命令に從つて切つたり突たりして貰ふ事があります。私は外科醫者でありますから隨分切ることは好きでもあり、且つ之を以て職業として居るが、決してそれを好んでする譯ではない、外に方法の施しやうもなく、仕方がなくて切つたり突いたりするのであります。切つたり突いたりすることは人間に大變の苦痛の事でありますから、若し外科の病氣が無くなりますれば私共外科醫者は食へなくなりますが、それにも拘はらず吾れ〳〵外科醫者は一般に外科の病氣が無くなるのを誠に喜ばしきこと丶致して居ります。ソレ故外科の衛生を廣く世の中に施して、皆樣が外科の病氣に罹らぬやうに致したいと思ふので、皆樣に於ても既に衛生を御守りになつて外科の病氣に罹らぬやうになれば、外科醫者は皆之を喜ぶのでありま

す。けれども外科の病氣は衛生を守つて避けらるゝのも有りますが避けられないのも有ります、如何に衛生を固く守つても病氣に罹る事が有る、例之ば先天性の病氣即ち兎唇とか或は指が一本多いとか、少ないとか云ふ如き生來の病氣が有る、斯う云ふ病氣は注意の施しやうに因て些つとは減るかも知れぬが全く無くする事は先づ難い、兩親も健康で有り妊娠中に怪我もせず、出產にも氣を附てそれが爲め產れる子供ハ十分に發育するときは或は少しは減るかも知れぬが併しまだ之れで全く無くなるものでハない。兎唇でも、指が多くても少なくても學問上では決して不思議の事では無い、人間には有るべきことで御座いますから、左樣云ふ風な事を衛生上より防がうと思つても六ケ敷い、是等は衛生を守つた爲めに減らす事は先つ難いと思つて宜しい。其外生來の瘤、頭や手に大きな瘤が出來る、御婦人方では卵巢膿腫、俗に云ふ脹滿、斯う云ふ病氣は皆瘤で余計な品物が身体内に出來るのです、斯う云ふ風な病氣も衛生上に減らす事は難い、併ながら又他の一方から考へて見れば多くの病氣の中でも其多くは自ら求めるので衛生を守つて往かぬ所から大事に至らしめることがあります。如斯ものは衛生法にて無くするとか出來或は病氣を輕くするとか出來るものです今それを一々申上げると大變に長い時間を要しますから、皆樣方が御手近く出來る事丈けを申上げて置きます。

先づ御婦人方及び小供衆に一番多いものを申まするが、御婦人方なれば針仕事をして針の尖先で指を突き、或は水仕事をして「とげ」を刺すとかして忽ち瘭疽と云ふ病氣が起ります、是れが一番御婦人子供に多いのです、實に手や足を腫らせる事は大變に澤山ありまして、私共病院で毎日百人位の病人を診察

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

致しますが、御婦人が瘭疽で指を腫らしたと云ふて來る數は毎日五人や六人位づゝは有ります、此瘭疽と云ふ病氣はどうしても切らなければ癒す事ハ出來ぬもので有りますから、切ッて苦めて其上永い間かゝつて癒す所の實に不都合極まる病氣で御座いますそれ故何卒世の中の御婦人方は瘭疽に罹らぬ樣にしなければならぬ、それにはどうすれば宜しいかと云ふに指を腫らす事の無い樣に注意なさらねばならぬ
私共が多くの病人に就いて調べた所ろに因れば指を腫らすはどう云ふ處に在るかと云ふに、御婦人方の指を腫らすは大概は裁縫で指を突き或は水仕事をする時に「とげ」を立てる、それから腫れ出す。此二ッの原因が一番多い、瘭疽と云ふ病氣の容體を一々申すと長くなりますが瘭疽は大變に悪い膿があるので御座いますから、少しく油斷すると指一本、時として酷いのになると腕一本をも切斷しなければならぬやうなことになります、大變に病氣の廣がりが早く、病氣の勢が烈しいので遂に指や腕抔を落すので御座います、それから來た病氣の關係は大變に烈しいものでございますから、是れに罹らぬ樣にするには「とげ」を立て針を刺さぬ樣に氣を附けたならば瘭疽は世の中に無くなり、隨て外科の瘭疽療法は入らなくなると云ふも善い位にあります、身体の衛生は空氣食物等にまでも氣を附けなければ、其目的を達する事は出來ぬが、此外科的衛生は甚だ單簡にして世の中の人が針を刺し「とげ」を立てない樣にすると直に衛生の目的を達するので御座ります先ヅ一番に指の先きに傷を附けぬ樣にするのが確かな法で有ります。併ながら過ッて針や「とげ」を刺した時にはどうすれば宜しいかと云ふに、針を刺し「とげ」を立てた時は、未だ瘭疽は出來て居ないときならば、唯外の皮に傷を附けたのみですが其針や「とげ」に附

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

着したる或は空氣の中にある「バクテリヤ」病毒が傷口から這入ッて始めて瘭疽が出來るそれだから過ッて怪我をした時は、未だ瘭疽にならぬ中に良く消毒して且つ外から毒の這入らぬ樣に、繃帶を掛けて厳重に結んで置けば決して瘭疽に罹らうとしても罹らずに仕舞う。ソレ故先づ一番宜いのは「とげ」や針等を立てないやうにするのが安全で有りますが、若し過ッて立てたならば、初の中に繃帶を掛けて外の交通を遮斷して置けば必ず瘭疽に罹る患ひはありませぬ。

それから其次に多い病氣は凍瘡、此凍瘡は寒く成り際或は急に寒くなる時に最も多い、別して東京抔では多くの子供の手足に凍瘡の出來て居らぬものは殆ど無い位で隨分凍瘡と申すものは五月蠅ものであります。啻に五月蠅計りでなく、凍瘡の度が進んで來ると、恰度脫疽で足が腐ッたと同じやうな結果を來すことが有ります、凍瘡も鳥渡足の甲、手の先き等の小部分から始まつて初めは少し痒い位のものも遂に指が全く潰れ或は足が全く無くなるやうな事も有ります。ソレだから成るべく凍瘡に罹らぬやうに仕なければなりませぬ。此凍瘡の爲めに矢張り病院に診察を乞ふ者が大變に多くあります即ち之れが爲めに金を拂ふて治療を受くる者が年々澤山に在りますから、若し此凍瘡が全く無くなつたならば、世の中の經濟にもなり、健康には無論宜いのでありますが此凍瘡はどふ云ふ風に出來るかと云ふに、一と口に云ふと非常に熱い所より非常に寒い所に移るとか、非常に寒い處より熱い處に參るとかすると出來ます此凍瘡の出來るは、人間の身体に在る血管が熱さ寒さの急激の變化に遇ふ爲めに伸びたり縮んだりする即ち非常に寒い處から暖き處の室に這入るか又は暖き所より寒き處に移ると血の通ッて居る管が急

に縮ッて能く通はぬやうになる。通はなくなると紫色に變じて來る、ソレ故凍瘡の出來る時期と云ふものは、秋から冬に這入り際からであります。それですから大變に可愛がられて居る子供が、學校抔で寒い處に居ッて、家に歸ッて直ぐに行火を入れて足を温めるとか、或ハ寒い路を通ッて學校に參り、直ぐに暖き室に這入ッて煖室爐の傍に寄ッて手足を温めると、身躰の中の血管が調子を合せて呉れないから、血液の流通が惡くなッて凍瘡と云ふ病氣が出來る。ソレ故軟弱なる子供或は御婦人方は秋から冬にかけては外に出る時は手袋や足袋をして御出なさるが宜しい、又非常に冷たき水に手を入れぬ樣にして置くが宜しい。若し寒い所から暖かなる房室に這入らんとする時は其前に能く手を揉みて少しく暖氣を取ッて御這入りなさるが宜しい。寒い處から暖かき處に這入るのに手を揉むのがどうして好いかと云ふに、手を揉みますと局部に熱が出で幾分か暖氣を覺へます、サウして漸々に温度を取り急激の變化に遇はぬやうにすれば凍瘡を起す事は少い、それですから外から家に入る時は手を揉むが宜しい、又家から外に出るにも手を揉み、或は漸々に寒くする事に注意したならば凍瘡の出來るやうな事はない。併なから鳥渡一言是丈けのことを申して、皆樣がそれを御守りになつた所がそれで凍瘡と云ふものを全く無くす事は出來ませぬが、幾分か裨益する所もあらうかと思ひます。凍瘡も殊に烈しいのになりますると手足を切らなければならぬ樣な事が有りますから、始めの中に氣を附けて豫防しなければなりませぬ。世の中には凍瘡藥と云つて、熊の油等を賣つて居るがあれで癒れば何も恐るゝには足らないが、あの賣藥を以て癒す事は難い、此凍瘡を癒すに就ては歐羅巴當りでも醫學者が非常に研究して居ります、日本で

も種々苦勞をして居りますが、未だ全く癒す事は出來ない位、併ながら先づ今日の塲合では大方癒す即ち自ら信用して癒すと云ふ位に立ち至つて居ります。先づ一番確かな豫防法は前にも申上げる通り急變と云ふて急に寒い處から暖き處に入り或は暖き處から寒い處に出でゝ身体の調子を狂はさぬ樣に氣を附けたならば普通の凍瘡は防ぐ事が出來ます。

其次が火傷、隨分火傷と云ふものも原因となる品物が澤山に在る、火で燒るのも火傷熱い御湯を掛けた爲めに出來るのも火傷、或は炎、電氣燈の炎で燒けるのも火傷、斯の如く炎で燒け、火で燒け、湯で燒けるのも種々原因が有りますが、何れも一寸考へると容易いやうで有るが、決して容易いものでは無い隨分恐ろしきもので有ります。今日の塲合では身体の三分の二以上火傷したならば生命を保つ事は出來ませぬ、燒けた所は血液が無くなつて仕舞う、則ち頭と胴と燒けて仕舞うと、どんなに醫師が骨を折ッて治療を施しても死んで仕舞う。故に火、炎を常に扱ふ人々は火傷を仕ないやうに氣を附けなければならない。若し世の中に火傷が無かッたならば、世の中の人の死亡數は必ず減ずるに違ひない、けれども一寸過ッて手の先き足の先き抔に火傷をする事が往々有る、是れは死ぬ程の事は無くとも、火傷の痛みと云ふものは非常に烈しく、其苦み丈けても堪らぬ樣にしなければならぬ。ケレども怪我で御座いますから、皆樣が充分に御注意なすッても必ず之を逃れることは出來ないとがありますから火傷の時の注意を玆に申上げて置きます。

火傷には三ッの種類が有る、其中一番容易いのは皮膚が赤くなる、其次は水腫れ、其次には焦けて黑くなるので、此三ッの火傷は多少相違がある、先づ湯を掛けて赤くなッたのは一番輕いのであります。此

赤くなッた火傷は縱令打捨て丶置いても膿み出すやうな事は(時としてハ有りますが)滅多にない、ソレ故赤くなッた火傷なれば極く輕いと思ふて宜しい、併ながら赤くなッた丈けでも痛みは强い、此場合には隨分痛みに堪へぬから、痛みを減らすと云ふ考へをしなければならぬ、醫師の所に直ぐに往けば醫師は相當の手當を致しますが、併しさうも往ぬから、其場合には水の中に手を入れて冷せば大變に痛みは止まる、其上都合宜く往けば癒ッて仕舞います。是れは皆樣方の御中で容易く出來る事故輕い火傷をした時は水の中に手を入れると云ふ樣に御注意なさらねばならぬ。又醫師の所に駈けて往く時は何分か時も費しますから、何でも構ひませぬから奇麗な油を塗つて置くが宜しい、なぜ斯の如く水に手を入れ、或は油を塗れば宜いのかと云ふに、外の空氣に燒けた所が觸れると、空氣の刺激する事が强く、爲めに痛みが烈しくなりまする。そこで水に入れ、或は油を塗ると空氣の刺激が少ないからそれで痛みが輕くなる、併し醫師の處に參るのにまでも、水の中に手を入れて居る譯には參りませぬから、淸淨なる油を塗て置けば醫師は完全の治療を施します。次に水腫れは唯赤くなつた丈けよりは少し重い方の火傷であります、又大變に其場所が膿み出し痛み出しそして思はぬ不幸に陷る事があるけれども。旨く遣れば些ッとも傷も遺さないで癒る、先づ水腫れが出來たならば、素人は其水腫れを破らぬやうにして、矢張り水の中に入れて冷すが宜しい、醫師に往くまでは此水腫れを破らぬ樣に注意しなければなりませぬが、醫師は之を破らなければ、此病氣を癒す事は出來ませぬから之を破ります、併ながら醫師は破つても其治療を施す器械も消毒し、手も消毒致しますから少しも差支はありませぬが、素人は袋を破ると必ず袋の下

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に病毒を入れます、袋を破りますと、下には透明の水があつて、ソレと引換へて病毒が這入つて膿み出す様なことがある。初めは水腫れの中は透明なる水が少しあるのみで膿はない、それを破ぶると透明の水が膿み、痛を增す様になるから素人は袋を破らぬ様に注意するのが肝要で御座います。ソして醫師が往ッて適當の法を施したならば、痛みもなく傷もなく奇麗に癒ります。ソレから第三の黒く焦げた火傷は其部分が非常に強く燒けたので炭になる。炭になれば即ち其部分は死ンで仕舞ッたので、黒く焦げた火傷は其痛を止めるには矢張り水に入れて黒き處の取れぬ様にして、醫師に適當の療治をして貰はなければならぬ、黒き火傷は傷が大きい小さいに拘はらず初に相當の見込みを附けて、極く思切ッた療治をして貰はなければならぬ。ソレ故火傷をしこ黒く焦げたならば直ぐに醫者に診察して貰はなければなりませぬ。先ッ火傷のことはソレ丈に致して置きます

其次に申して置くことは、犬、鼠或は人間に嚙まれた咬傷は格段に御注意を要することで御座います。歐羅巴の醫書には鼠に嚙まれたことに就ての記載は少いが日本に於きましては非常に鼠に嚙まれた例が澤山ある、ソレに反して歐羅巴では犬に嚙まれることは澤山にあるけれども、日本では犬に嚙まれることは少なう御座います。（此節長崎縣に此事あり）歐羅巴では犬に嚙まれた爲めに色々の病氣を起すことがあります。犬に嚙まれて起る狂犬病或は恐水病と云ふ病氣は年限は確と分りませぬか、數日乃至數年を經て傷が癒ッたに係らずソレがために精神病を起して狂ひ出すのです。則ち犬に嚙まれて傷を受けた爲め、既に傷も癒り年月を經たる後に至ッて、精神の狂ふことがある。則ち狂犬病或は恐水病と申して恰も狂犬の猛り狂ふ如く同じ様な病氣になり

ます。ソレから又鼠に咬まれた傷に就ては未だ研究が積んでない、即ち今私共が研究して居るのでありますが、是も矢張り癒つてから後、五年六年を經ても時々震搖が來て、熱くなつたり寒くなつたりすることがあり又た身体の各部に痛みを起したりする是はどんなに醫者が手を盡しても癒りませぬ。それから人間に噛まれた傷は後まで害を貽すことは無いが容易に癒らない、時としては生命をも亡ふことがある、兎に角動物に咬まれた場は其部分ばかりでなく全身に害を及ぼすものである、犬鼠の齒の中には一種特別の毒物があつて、それに咬まれると身体中に病毒が這入つて來る。若し過ッて犬か鼠に咬まれたならばどうしたら宜しいかと云ふに、大概の人は傷所を抑へて醫者へ駈付けるのが當り前でございますが、切傷突傷なればそれで宜しいが、動物に咬まれた傷は醫者に往く迄も手當をしなければならぬ。

犬なら犬に咬まれた時は、寧ろ咬まれた處より中央の方を抑へて、例へば腕を咬まれたとすれば、其咬まれた所より少し上の方即ち體に寄つた方を括ッて置いて、血は出ても宜しいから、さうして醫者に駈付けるが宜しい、其譯と云ふのは咬まれますと傷が出來て血の環ッて居る管が破れる、ソして其傷口から病毒が這入ッて其管を通つて身体中に循る。ソレ故全身中に病毒がまはるので、ソレを其人が注意して中央の處で固く縛つて置きますれば、其縛つた處から下は血液の交通が無くなりますから病毒が這入らうとしても這入つて來ない。ソレ故咬まれても咬まれた處だけで、病毒を體内に入れぬと云ふ利益がある。其上に靜脈の管を壓迫して動脈のみが通せるから以前より倍の血が出ます。血の出るのは決して恐ろしき事ではない却て利益がある。即ち病毒が這入ると雖も血か出つるか爲め其病毒を止めて置か

すに洗ひ出して仕舞ひます創の中から多くの血液が出て、從ッて病毒も這入ッて居ることは出來ぬから皆出て仕舞ひます。故に中央部の血管を固く括るは畄に全身に毒を送らぬと云ふ方法に用ひるばかりでなく、病毒を外に出すに就て肝要なることであります。

我國に於ては犬に咬まれることは少ないが、暴れ鼠などに嚙まれることは隨分あることで有りますから、サウ云ふ塲合には右の如くに致したならば或は何年間持續すべき全身病を起さぬ様に豫防することの出來るならんと思ひます、先づ理屈はサウ云ふ譯でございますから、右の如き事が万一ありましたならば前述べました御注意をなさるが宜しい。

其次に御婦人方に多いのは乳の腫れる病氣、乳の腫れる病氣ハ殊に御子供衆を持ッて居る方に多い。此の乳の腫れるのはどうして起るかと云ふと、重に子供の歯の生へる時分に咬まれるので、乳首のある所に傷が出來ると、ソレから腫物になる。之を又打棄てゝ置くと乳房炎と云ッて乳一体の腫れ物となることが多い乳の腫れるのは大變痛んで苦むのみならず、第一子供に最も必要の乳を離れて仕舞はなければならぬ。子供のために世の中には牛乳ミルク等の如き母親の乳を代用する品物が有るが、小供のために營養としてハ母親の乳程に良いものはない、ソレを母親の不行屆のために膿にして仕舞ッては實に小兒に對しての不注意至極で御座います。ソレ故乳を飲ませる人は最も注意しなければならぬ。初めに一寸皮膚病が出來たとか、嚙傷が出來た時は少しも注意をしないのが通常でございますが、ソレからして乳房炎と云ふ極めて烈しき病氣になるのでありますから婦人たり母たるものは最も注意しなければなりませぬ。之に對する豫防法は、最初嚙まれたならば

其處を早く石炭酸の如き強い藥で洗ふとソレが子供の口中から胃に這入ると云ふ恐れがあるから、極く弱き消毒藥で洗ッて置けば癒る。又一寸した皮膚病が出來たならば、其時早く手當をすれば一貝か半貝の膏藥で癒るので御座いますから、豫め其御注意をなさるが宜しい。

ソレからまだ外にも澤山有りますが、右の如く一々病氣の名を擧げて申すと大變に時を費しますから、先ず是丈に致して今迄申した事を一言に約めて申すと、何でも外科の病氣と云ふものは初めの中に注意して置けば大事にならぬ性質のものであるから成るべく病氣に罹らぬやうに致し、怪我なれば怪我に罹らぬ樣にするのが衛生上何より必要、所謂小心翼々として注意さへして居れば外科の病氣の半分以上は必ず無くなるに違ひない。私共は外科醫てあるから成るべく病人の多きを希ふかと云ふに決してさうでない、一人でも此の病氣に罹る者の少なからんを祈ッて居ります。ケレども世の中が段々頻繁になッて優勝劣敗と云ッて人々劣けぬ氣が起ッて來る彼の人はアレ丈の事をしたから己れは是丈の事をしやうと云ふやうになッて參りますので中々古への聖人のする樣に悠々考へて居る隙が人の心に無くなッて來る、故に世の中が文明に進むに從ッて人の心は漸々悧巧になッて來るにも拘はらず知らず識らず怪我をする者か多くなり又た外科の病氣が益々殖へる樣になる、外科の病氣の殖へるのは世の中が頻繁になッて來るからであります。今日では往昔に無かつた病氣が澤山に出て來た、則ち鐵道の出來たために軌道に引かれて怪我をするとか、或は蒸滊の釜が破裂して怪我をする人もあり或は電氣燈の火に遇ッて火傷をするとか、世の中が進歩すると益々競爭が盛になる、競爭が盛になるから今日では昔と違ッて夜

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

間も寢ずに働く時が多くなッたと云ふ如き關係から病氣に罹る機會が增加し怪我をする人も多くなる。ソレ故此處で私が何遍繰返して以上の注意を申上げても、之を以て怪我人を減らすことは難い、何となれは文明は退歩するものではありませぬ。漸々世界が進むに從つて外科の病氣は漸々殖へる、世の中は多端になり競爭は盛になるから決して外科病は減るものではない。將來益々殖へると云ふことは今日より預言して置ける位いで御座ります斯くの如く怪我をする者は多くありますけれども少さい時に氣を注けて大事にならぬ樣にすれば、大に外科衛生の一班を助けるのでござりますから、罹らぬ工夫は勿論で御座いますが、若し罹ッたならば大事にならぬ樣に御注意あらんことを希望します　（完）

寄書

哺乳時の注意

◉婦人須知　醫學士　賀古鶴所君

生たる母の乳を以て嬰兒を養ふは最とも確實なる滋養法にして之に優れるものなし八ケ月乃至十ケ月間生母の乳を哺て生育せし兒は常に健康強壯にして危險なる下痢症等に罹ると頗る稀れなり但し又生母の乳を用ゆべからざる場合あり左の如し

一　生母の食物全たからざる者
一　生母病を帶べるもの殊に肺病を患ふる者
一　生活上の作業の爲に食事時間の一定し居らざる者

夫れ嬰兒の滋養如何は後來壯健有爲の人となると虛弱無用の人となるとの岐路なれば父母たる者最も注

意して保育せざるべからず然るに今乳母を傭ふて乳汁を與へしめば或は如何なる病を傳へんも計り難し況んや下婢を傭ふて已れに代はり雜業を執らしむるは乳母を傭ふよりも經濟上目前の利益あるに於けるをや故に豫め用意をなし成るべく生母の乳汁を以て養育すべし又妊娠中後の六ヶ月より日々清淨なる水を以て乳房を洗滌ひ乳頭の窪みたるは指にて摘みて上け又ハ上圖の如きゴム製吸乳器を以て之を吸ひ上くへし而して適宜の運動をなし滋養を取れば從て乳汁の分泌盛になるなり但し乳汁の分泌を促かす藥とては別にあるとなし

御產の用意

嬰兒の衣服　嬰兒には特別に臥床を設くへし夜中產婦と同一の臥床に臥して惡臭の氣を吸入せしむ可らす故に搖籃若しくは籃車を用意するを良しとす又圖の如き蒲團を製し嬰兒を包み以て產婦の傍に臥せ

しめ若しくは抱くべし決して重き被褥を用ひ又小豆を充てたる枕を用ゆ可からす強て枕を要せは蕎麥殼を充てたる者を用ゆべし

衣服は父母の貧富に應し自ら差別あるべしと雖ども清淨なるフラチル若しくは綿布を用て新調すべし古着幷に絹布を用ゆるは衛生上甚だ宜しからす而して成るへく多く調へ置き屢々更換して洗濯すべし獨乙國に於ては嬰兒の衣服を新調するに略ぼ一定の習慣あり貧富の度に應じて應分の準備をなすとなり寔に羨むべき好習俗と云ふべし即ち一ヶ年の收入金二三千圓に上る者は凡そ百圓を以て嬰兒の衣裝料に充て衣服、臥道具、浴盥、產用機械其他諸雜費に用い又一ヶ年六百圓の收入ある者は十六圓を費し三百圓收入ある者は七八圓を費す又貧家に至ッては一圓五十錢乃至二圓を費し僅に襯衣二、上着三、涎掛二、

帶一、臍部の綳帶一、尻當二、表衣一を調ふるのみ然ども母の性質敏捷にして務て洗濯する者に於ては別に汚穢を見ず

看護婦

產婦並に嬰兒の看護は產婆に托するを最も良とすと雖ども已むを得ざる塲合には熟煉なる看護婦を雇ひ產前六週乃至八週間より產後一二週間看護をなさしむべし貧者は事に慣たる近親の婦人に看護を依賴するを良とす但し看護婦は病院等より雇ひ來る可らず如何なる傳染病毒を擔ひ來るも計り難ければなり

產室の注意

產室に充て得べき者數室あらば醫師若くは產婆に請ひ最良の室を撰ひ豫め淸潔になし器物等を他に移し人をして此室に起臥せしめず日々開放して能く空氣を通ずへし產室は極て淸淨にして庖厨便所倉庫物置等に近接せず廣く且つ靜にして空氣能く流通し明朗くしてしかも光線直ちに射入せず且冬期室內の温度に注意し攝氏十五度即ち華氏六十六度以上に煖む可らず便器は決して室內に置く可らず家具も亦一切置く可らず共に空氣を汚敗し塵埃を生ずる原となるあり但し產室は唯產婦嬰兒看護婦のみの居所と定め決して餘人殊に兒童を入れしむ可らず

臥寢

臥褥は新淸なるフラチル若しくは糊氣を去りたる綿布を以て新調し新淸なる綿花若しくは軟き藁を以て之を充つへし已むを得ずんば布は能洗濯し綿は日光に中てゝ空氣に曝らし淸淨になしたる者を用ゆるもまた可なり褥の上には白色の敷布をしき恰も腰部に接する所にハ敷布と臥褥の間に新らしき厚質の綿布を方三尺許に疊みたるを挿み以て汚液の臥床に浸入し危險なる腐敗を釀すを防ぐへしこれには決して古衣等を代用す可らず被褥には毛布を用い白布を以

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て其両面を包むへし若し蒲團を用いば臥褥と均しく清浄なるを要す枕は蕎麥殻を充てたる括り枕を用ゆべし臥床を設くるには煖爐並に窓障子に近接すべからず而て窓帳を垂れ若しくは清浄なる屏風を立て隙風を防ぐへし又産婦の臥位は常に日光に面す可らす

産婦の着すへき衣服

襦袢寝衣共に新清にして且洗濯に便なるを要す総て衣服夜具等少しにても汚染せば直ちに新清なる者と更換して洗濯すべし頭髪は豫め洗浄し緩く束ね置くべし

産婦の食品

産後は常に食氣乏しくしてしかも饑を覺へす此際に在つては硬き食物を退け、ソップ、牛乳、粥並に葡萄酒を和せる水等を用ゆ可し水飴は少しは可なれども常食に換へ若くは粥に混し抔して多食するは不可なり又日を經るに從ひ食氣漸く進まば成るべく肉類新鮮なる野菜等を食し餅類及び消化し難き者を多食す可からず此際最も食物に注意すへし倘し胃腸を損せば自身の營養を傷ふのみならず併て嬰兒の健康に及ぼし發育を害すること少なからず

御産に用ゆる器械

一木造の浴盤并に桶、これは何れも新調すべし平常洗濯等に用いて汚染したる者は不可なり

一清水温湯

一温湯を充てたる壜　これは産後脚部の冷却る時傍に横へ置き以て暖を取るに供す

一臍を掩ふ為めに用うる繃帯

一清潔なる手拭

新調せる産婦と嬰兒の衣服　これは豫め温め置き分娩後に着用す

サリチル綿サリチルガーゼ脱脂綿（脂を脱きたる綿にて能く水液を吸収する者）これは共に産後臀部に

當て用ゆ藥舗にて購求すべし古き綿花並に襤褸等は決して用ゆ可らず産後の發熱及ひ諸病ハ其原因多くは此等の不潔物を用ゆるに起る者あり總て産後の處置は創痍を治療すると異なることなければ其目的にて諸事至極清潔になさゞるべからず輕小の創傷と雖ども現今は種々消毒法を施し消毒藥を含める繃帶を施すとあり然るに産後の體は實際大創を帶る者なるに此點に至ては恬として尙は陋習を守り古綿等を用ゆる者あり豈痛嘆の至ならずや

其他五十倍石炭酸水葡萄酒及ひ臥床に用ゆる便器を要す便器は其形左圖の如くにして陶器若くは磁器製を良とす用に臨て溫湯にて暖むへし用後は速に汚物を排棄し洗淨して室外に置くへし産後は成るへく便器を用いて兩便を取り圊に上らさるを良とす何となれは糞壺にては常に腐敗を釀し惡しき瓦斯を發生するを以て創部を侵し之れか爲め往々危險ある疾病を釀すとあれはなり

醫師を招く可き場合及豫め産婆に醫師を要する場合を尋ね置き變故あるとき速に救助を得る樣なしおくを以て肝要となすなり

（以下次號）

衛生叢談

浴場行日誌（前號の續）

醫學博士　佐々本政吉君

途次ザットレス村に於て馬車を駐め麥酒一杯を傾く一時四十分キースユーブルに着す割烹店にて晝餐し此所にて當礦泉の管理長に邂逅し直ちに「ザウエルブルンチン」泉に至る泉は高岡の半腹に在り冷泉なり之を試むるに亞爾加里性にして炭酸氣強く少しく

鹽味あり味佳良なり行くこと數步にして泉を汲み瓶に容れ此岡上より岡下に運輸する小鉄道を見る滑車の裝置にして二對の軌道を設け一は上昇に便し一は下降に供す今若し空瓶を岡下より上昇せしむるときは礦泉を盛りたる瓶を同時に下降せしむ故に人力を用ゐず下降する瓶の重量は他側の空瓶を上昇す其裝置の簡なるにも拘らず人力を省くの巧なるに感せり之より瓶藏荷扱へ場、瓶洗滌場等を見るビリンと大差なし只ギースユーブルの規模廣大なるのみ獨り瓶に栓入する「コルク」に燒印する所の裝置頗る見るべきなり聞く一少女にして一日三万個を燒印すと器械は上に金屬製深盆を載せ中央に「コルク」大の穴を穿ち其下に「コルク」の落つる圓柱管を箝入し以て下臺と連接す下臺の一方に鞴を設け酒精燈に送る常に新鮮の空氣を以てし其火力を盛ならしむ燈の裏面に金屬製燒印版を附し凸字を以て之を燒印す版の前に轆車あり轆車より下方に向て斜に一管を附す其末端に大なる箱あり斯くて「コルク」は上盆より下臺に落ち來り燒印版の前に至り轆車の壓により充分に燒印せられ直ちに驅逐せられ斜管に入り下降して箱に入る之を運轉するに只少女の足尖を以て臺の下端にある厚き金屬製の小板を踏むのみ此器はハンブルヒに於て製出せらると

其他礦泉飲場、浴場、水浴、氣浴、溫浴、松樹浴等を見る浴室の裝置他と大同小異なり只「モール」浴に供する浴器に平滑なる陶版を用ゐ「モール」浴を爲し之を洗洒するも其面の平滑なるにより容易に「モール」を除くを得て直ちに滿たすに洗水を以てし洗浴を爲すとを得て一器兩浴を爲すの便ある事是なり

ギースユーブルは「エーゲル」河畔にあり後面直ちに山を負ひ對岸又一の高陵を控ふ松柏森々として常綠を呈し宛然一庭園の如し殊に療浴所として始めて世

に知られしは凡そ二十年前の事なれば住民百を出です近傍には一の製造所の設けなく爲めに空氣を害するの虞れなく閑雅幽逸の風致に富み四面高陵を以て繞らし氣候激變なし亦愛すべきの浴場なりとす（主成分略）

「ギースユーブル」は飲療泉を主とす目下海外に此泉を輸出する事年々六百万瓶に降らず亞米利加澳地利大州は其重なる華客なりと云ふ百瓶の價十五「グルデン」より二十「グルデン」に至る（半「リーテル」は七十五「クロイッ」其盛なる多く見ざる處なり

而して諸器械の裝置及運轉場瓶臓等の巨大なる驚くべきものにして目下平均二百人の傭女を使用す場内には郵便電信へ電話を取扱ふ所あり

是等鑛泉、浴場娯樂場及ギーフユーブルに在る一切の家屋は悉くハインリッヒマトヽニー氏に屬す氏は此地の富豪にしてギースユーブル全村を擧げ之に接する近憐の地所森林皆氏の有なりと只惜むらくは「カルヽスバット」より此地に至るの通路嶮にして便ならず人若し馬車を傭ふときは殆んど十「グルデン」を要するを以て訪ふもの躊躇逡巡す近年氏新道を開鑿せんと欲し二万「グルデン」を出し尚二万「グルデン」を近傍村落の負擔となすことを計畫せしも是に由りて果して成就するや否や未だ豫知する能はざるなり盖し氏は毫も他人の力を借ることなく獨力網羅自から經營せんと欲するの氣節あるを以て株式會社を興し乘合馬車等を設くるを好まず又壯なりと云ふべし氏の居宅はギースユーフルの入口に在り盛夏暑を此地に避け冬季は京城維納に住す儼然として王侯の如し（以下次號）

◉實行を望む

本會に於て今日まで御咄しのありました事で衛生上

に關した事は隨分澤山出て居ります就中御話しの多く出ましたのは、育兒法、子供を育てる方法、此事に就きましては多勢の御方々より度々御咄しが御座いまして、初めから演説を御聽きになりました御方は、充分に御了解でわらうと思ふのです。ソレから又御婦人に取て殊に衛生上の注意を要しまするのは、妊娠中の養生産後の養生が至極大切なる事で御座いますが、此事に就きましても段々御咄しが御座います、ソレから又食物に就ても度々御話がありました。ソレのみならず歯の事に就ても、三回程も御咄しが御座いました。ソレから傷を受けた時の心得小さい傷でも緩慢にしては往かぬと云ふ事に就ても御咄しが御座いましたし、血の事に就ても御咄しが御座いました。ソレから病氣の事に就ても、虎列剌の如き急性の傳染病　或は天然痘抔を避ける事に就ても御咄しが御座いました。ソレのみならず慢性の傳染病肺勞　梅毒……就中肺勞は昔からの傳染病であるから、からだの一体弱い人はどう云ふ工合にすれば、豫防する事が出來る抔と云ふ様な、病を防ぐ方法に就てもいろ〳〵御話しが御座いました。又醫者を撰む法抔と云ふ事も出て居る、此の事に就て一言述べ度き事がありますが、醫者は初めに能く撰み、此醫者なれば間違ひないと思ふたならば、ソレをば定めて頼まなければならぬ。サウすると醫者の方でも其家内は一体ドウ云ふ性質の人であるかと云ふ事が能く解ッて來て、此子供は斯う云ふ病に罹り易いとか、或は此子供には此藥が能く利くとか利かぬとか云ふ事が解る醫者と云ふものは單病氣を治するのみならず、平常衛生の事を相談するのであるから、容易に醫者を換へては往けぬ。ソレから病氣の危き時に方て、余り多勢の醫者を連れて來て相談するのは、却つて間違ひの起る元である」と云ふ事が

出て有ります。此事は、成程度々醫者を換へると云ふは宜くない、然し病氣の重き時に多勢の醫者に見て貰ふと云ふは、今日ではどうも免れ難い事で、病氣が六ケ敷いと一人の醫者では不安心であるから、外の醫者に掛ッたら又外に好い考へが有りはしないかと思ふ事もありませう。併しソレに就て往々世間に在る事ですが。外の醫者に頼むのは、是迄掛ッて居る醫者に對して失禮であると云ふ樣な考へから、前の醫者には内々で、他の醫者を頼むと云ふ事があります。其時に第二の醫者が初めの醫者と同じ考へを持ッて居れば宜しい。或は一方を斷然廢めるのならば宜しいが、一方からも藥を貰ひ、両方の藥を飲むと云ふ樣な事があると、藥がかちあふ……と云ふ譯でもありますまいが往々間違ひを起します。斯う云ふ場合には決して醫者の方では悪く思はぬ、又ソレを惡く思ふ樣な醫者では往けませぬ。ソレ故へ寧ろ初めに其醫者に打明けて相談を致し、お前一人では不安心だから何某に診て貰はうと思ふと云ッて相談を爲さるが宜しい。今日では醫者を多くする事は免れまいと思ひますから、醫者に打明すと云ふ事を一ッ附加へて置くが必要であると思ひます。

其外にも段々御話しが出まして、婚姻の事、婚姻をするには年齢は幾歳にならねばならぬ、或は其血統……遺傳病のこと抔も委しく調べて往かねばならぬと云ふやうな御話も御座いました。ソレから一身上の事に就ては、御召物の事、白粉の事、髪の結方等もあります。又海水浴の事抔も述べてあります、就中冷水浴を度々すると血液の循環も能くなり身體も健康になると云ふ事も述べてあります。冷水浴は私も御勸めしたいと存して居りましたが、其遣り方などもモウ委しく出て居ります。成るべくアノ通りに御實行爲さることを望みます。ソレからして新鮮

の空氣の必要に就ても御咄しが有りました。外に出て運動するのが好いとか、一体日本の御婦人は運動が少ない、就中高貴の方々は運動が少ないから、種々様々の病氣が起ると云ふ事を申した人も多く有ります、私も此運動の事は、切に御勸め致さうと思ひます。先年私も運動の事に就て既に御話しを致し、其外にもいろ／＼御話しを致しました。併しどふ云ふ運動が好いと云ふ事に就てはまだ立入ッて御話しは致しませんが兎に角此運動を爲されたいと云ふとは御勸め申します。

其外にもいろ／＼の題が出て居りまして、いろ／＼御話が有ッたので御座いますから、何卒皆様に於て此事を實行なさるゝ事を希望するので御座います、ソレに就きまして、私自身が實行すれば宜いと知ッて實行しなかッたので、やりそくなッた事が有りまして大きに後悔致しましたから、懺悔の爲めに其事を一ッ二ッ御話しを致しませう。

私の妻が產を仕ました時、是までの賴みつけの產婆で度々の事であるから間違ひもなからうと思ッて捨てゝ置いた處が二人やりそくないました。一ッは產褥熱……血の道に罹ッたので、是は隨分清潔にして居ッた積りで御座いましたが遂に產褥熱になりました、ソレからモウ一ッは生れた子供は臍帶から血が出て死んで仕まッた。實に斯樣な事ハ私共は充分心得て居る筈で御座いまして、人にもサウ云ふ事を御話しをしながら、自らかゝる失策をすると云ふは甚だ申譯が無い次第で御座いますが、何も懺悔の爲めに打明けて御話しをするのであります。是は臍帶を堅く縛れば宜かつたのですが、縛り樣の惡かッた爲め又私の注意の足らなかつた爲めです。隨分產婆は慣れて居りましても、臍帶の質に因りますと余程確緊締めた積りでもサウ往かない、ソレ故是れは此方

で氣を附けなければなりませぬ。其後得ました子供も矢張り臍の緒を能く縛つた積りでありましたが、縛り樣が惡かッたか、後よ見ますると血が出て居る此時も前に小供を失ふ事がなく、氣を注けずに居りましたならば、第二の者も復た臍帯出血で死んでかも知れない、前に失敗したから後には其難を逃れましたが、何でも是れは生れた時に氣を附ければ宜しいので、別に六ヶ敷い事でも無いの御座います。

ソレからモウ一つ遣りそくないをしたのは、昨年暑中に家族を引連れて某所に參りました所が、投宿しました宿屋で、一ト間先きに矢張り家族を連れて來て居ッた者の子供が非常に咳を致します、其咳の摸樣が百日咳の樣だと思ふて居りました所が、果して醫者が百日咳ですから御注意なさらなければならぬと云ふて居りますので、愈々さうかと思ッて此方にも子供が居りますから、此所に居ては惡いと思ひましたが、態々支度をして出掛けて來たのであるに、直く歸るのも餘り殘念であるから、一ト間隔ッて居るし注意さへしたならば宜からうと思ふて居りました、所が其客も去て他へ行きましたから、マアよし先づ其時は傳染ッた容子も無いから安心して居りまして、家に歸ッて參りますると、四歲になる小供が咳を始めた、ドウも咳の仕樣が惡い、是れはやりそくなッたと思ひまして、直ぐ病院に入れ樣と思つた所が妻が病院に入れる事は不承知……外にも小さき小供があるから自身に附て往く譯にも往かず、もりか下女の外に差當り賴む人もなし、附人もないに病院に入れるのは可憐想であるからいやだと申します、併し外の小供達と一所に置いては險呑で有ると思ひましたから、近傍の家を一軒借りて其所に分けて人を附て置きました、始めの中は向ふに參ッて歸ッて來ると着物を着換へ顏や手を洗ッて、外の小供に傳

染らぬ様に注意して居いた。然るに其後他に遣りました小供が急性の下痢を起し、一日に二回もひきつけると云ふ騒ぎで其方が心配になりますから、今度家の者が皆彼方に行き此方に參りして、交通をした爲めか、世話の届かなかッた爲めで有るが、遂に當年生れました小供に百日咳が傳染ッて、大分長い間だ苦しみました是れを今になッて考へて見ると、皆私の不注意で、氣の附きました時に直ぐ引き返して來たならば百日咳に罹る事もなく、又病氣に罹ッた上は病院に入るれば宜しかッたのですが、「一體は斯うしなければならぬのであるが、マア〳〵此位で……」と云ふ様な考へから不注意を致して、遂に右申述べましたやうな失策をやッて仕まッた。

斯の如く實に此事は善いと思ふても是れを實行すると云ふは中々難い事であります。これまで本會で御話の有ッた事は皆様も御實行なさる筈ですが、併し一度聽いた事を少しも忘れずに皆覺へて居るものでも無いが、心に止まッて居る事丈けでも斯うしなければならぬ、斯うしたら宜いと思ふたならば、直ちに實行さるゝが宜しい、例之ば乳の飲せ方抔も規定を能くしなければならぬ、凡て何事にも規定を能くしなければならぬと云ふ事は、度々御聽になッて恐らく皆様に於ても御咄しは御了解になッて居ッても是れを一向に實行なさらない様では往けませぬ。今私が自身の遣りそくないを御話し致した通りで御座いますから、ドウか「此事は惡い」「斯うしなければならぬ」と云ふ事に御氣が附かれたならば、早速實行されん事を望みます。何事に依らず此實行すると云ふは中々六ケ敷い、酒は惡い、莨は惡いと云ふ事は解ッて居ッても、「酒は廢められぬ」「煙草は廢められぬといふ事を能く人が申しますが、廢められぬと云ふは、已れに打ち勝つ事が出來ないので其慾を制す

る事が出來ないので御座います。誰しも廢さなければならぬと知ッてゐて居る事は澤山に有るもので御座いますが今申す通りの次第でありますから、善いと思ふた事は必らず御實行あらん事を切に希望致します。

◉ツベルクリンの效力

曩にコッホ氏結核研究の爲めに獨逸國に出張せし醫科大學敎授醫學博士宇野朗、同佐々木政吉両氏の復命書は官報に連載せられしが今其結論を鈔記すれば左の如し

動物試驗及病床實驗に基き歐州諸家に聞知せるものと新聞及ひ雜誌の論辨とを參考するに賛成或は反對の論者とも往々其中正を失ひて極端に趨けり苟も醫家たるもの偏ならず黨ならず之を將來に研究し其正鵠に達することを勉めざるべからず

コッホ氏は曾て「ツベルクリン」の人体に於ける所の效驗に就きて報告したることなく旦暮孜々として其改良を企圖し有功無害の良品を製造することを勉め秘して未だ世に公にせずと雖ども今猶試用すと云へるを以て之を察するに氏も亦「ツベルクリン」を以て足れりとせざるもの丶如し小官其改良品を知るに由なきを以て尋常「ツベルクリン」の效用に就きて調査したる所のものを述ふれば該品は發明の當時専ら世人の想像したるが如き偉效あるものにあらす又た現今反對者の擯斥するが如く有害無效のものにあらす但し肺結核の初期に用ふるにはギルハルト氏の言の如く或は有效とし或は無效とし或は往々有害作用を致して危險を招くことなきにあらす然れとも若し之を以て該療法を廢棄するは早計と謂ふべし必ずや細謹注意して其利害得失の由て來る所を查閲し奏效の有無多少を計

較し以て其禁忌を明にし以て其主治を定め以て其適症を撰擇して其運用宜しきを得は其効を收むるに至るべし況んや近時良好の成績を得たる報告之あるに於てをや（リーベルマイステル氏スペンクレル氏トルチル氏バルチローースキー氏）今小官の觀る所を以て「ツベルクリン」の効用を結論すれば即ち左の如し

第一 「ツベルクリン」は全く廢棄すべきものにあらず尙は將來の研究を要すべきものとす

第二 該品は動物試驗上に効力ありと爲せとも未だ全からず

第三 人体の肺癆には幾分の効力あるも當初世人の想像せし程の偉効なかるべし

第四 該品は適症を撰擇し善く注意して小量を用ひ一頓に增量せざれは其害なしとす

第五 肺癆の初期にして經過緩慢病竈狹少咯痰小量榮養佳良にして熱氣なき者に適當すべし

第六 用量は至小量を以て始とし反應全く止む時も猶は同量を用ひ其全く止みたる時其量を漸次に增加すべし因て小官は敎授ランゲンベック氏の用法を以て適當なりとす

第七 反應熱は三十八度五分以上に昇しめざるを要す

第八 コヒ氏の療法を行ふの時限は少くも數月若くは一年已上を要するものなり

第九 該療法に氣候療法滋養療法及結麗阿曹篤の內服を兼用すれば其効を輔翼すべし

●欠伸の効能

通常欠伸を發することは物事に倦怠を生じ或は眠を催すの前徵と稱すれども「ヂグリー」氏は曰く朝夕欠伸の續きて發するあれば著しく肺臟を伸縮して大に運動せしむるの特効ありて衞生上必用の者なりと論じたりしが之も亦一理ならん。

◉若白髪の説明

近刊の東洋學藝雜誌を見るに兵庫縣梧南生なる人の問に世の少年にして早や頭髪半白なるものあり或は言ふ皮膚に固有の病症あるに因ると果して此の如くんば不治の病に無之候哉翹首して教示を待つ云々

之に對する緒方醫學博士の答辨は左の如し

若白髪は先つ天性にして或る親族に之を遺傳するあり或ハ腸室扶斯、丹毒、梅毒等に罹りたる後頭髪白色に變するあり或は精神刺衝に因て頓に白色に變する事ありといふも未だ之を根治するの法あるを聞かず唯硝酸銀或は蕉性沒喰に酸等の薬品を以て之を染色するに止まる法あるもの丶如し

◉音樂と病との關係

音樂と唱歌とは怡然として善く人を娯ましめ神を往かしむ故に病者によりては悶を散じ鬱を晴らし殆んど病のあるてとを忘れしむるに至るならんか

北米合衆國ポオートランド己決監醫の報によれば音樂は人の血管及神經等に感動を與へ血液の循環を善くし身体の温暖を増進せしむるの効ありさるが故に音樂師は實に醫師の好伴侶なりと

又露國の國手ドギール氏は生理上に於ける音樂の効力を研究して左の結果を得たりと

第一　音樂は血液の循環を善くする事

第二　心臟の皷動を進むる事

第三　音樂の作用によりて生ずる血液循環の變動は呼吸と相伴ふ事

第四　血壓の變動は音調の高低大小及び音の種類に關係すること

第五　血液變動の摸様は人と他の動物とに於て其趣きを異にし又人種によりて異なる事

英國倫敦府に於ては是に於てセント、セシリア協會なるもの起れり此目的は諸症の患者に就き至つて緩

かゝる音樂を以て患者の精神を安靜ならしめ苦痛を減じ睡眠を催さしむべきや否やを試驗し熟練なる音樂師を聘して醫師の依賴に應じ奏樂して治療を助けしむるにありて倫敦中央に一大音樂堂を建設し晝夜音樂を奏し電話機によりて重なる病室に送るなり而して此協會は先づテンプランス病院より着手し夫れよりヘレンスバーク病院及ボルトン病院に試みたりしが何れも好結果なりしと云ふ我邦の琴三味線の如何は如何なるものなりや三絃は兎に角琴の如きは能く其効能佳良ならんか

◉虎列刺病因撲殺法

虎列剌の病原なるコンマバチルスに就き獨逸帝國衛生會にて各種の食物中に於るコンマバチルスの生存期を試驗せしに魚類には三日より七日の間生存し梅桃、胡爪にても又右に同じく麵麭には二十四時間牛酪には四日より六日間麥酒には三時間白葡萄酒内にては五分間赤葡萄酒には十五分間苹菓酒には二十分間珈琲にては二時間又甘味あるものにては二十四時間牛乳の内にありては九日間死せずといふされどもバチルスは華氏百四十度の熱湯にて煮れば十分時間にして盡く死するといふ

◉滋養麵麭の新發明

獨逸の化學者は麵麭の滋養分を少しも減することなくして之を廉價に製造せんと工夫を凝らし終に日本に於て容易く得らるべき南京豆(即落花生)を麵麭に加味すれば其目的を達することを知れり南京豆より絞る油の殘渣は同量の麥粉に比するに四倍の養分を具ふる者なり從來人の棄てゝ顧みざる殘渣を麵麭に混和するときは少しも其價格を騰貴せしめずして却て其養分を高むるを得べしといふ。

◉我國に於ける肉食の程度

去る二十三年一ヶ年間に屠り殺したる牛馬の總數は

十萬一千七百五十頭にして今全國の人口中肉食するものゝ數を凡そ三千萬人と假定すれば屠殺したる牛馬の數と肉食者との比例は二百九十五人に對して牛馬の內孰れか一頭の割合となる即ち二百九十五人が一年間に食ふ所のものは僅かに一頭の割合なり之を見ても我國未だ肉食の發達せざる知るべきなり

●人造麝香の贋物多し

此程日本橋伊勢町星野某方にて特約する人造麝香は佛國理學博士が化學的作用により發明せしものにして雲南の產よりも保存方長く且其價も廉なりとの評判あるが近頃之に類する贋物多く商標其他とも僞造し大安賣なぞゝ唱へ所々に賣り附くるよしなるが中には只直段の安さに迷ひ贋造と知らず購求する人も多しと云へは需用者は注意すべき事なり、

●咬傷の藥

某氏の傳ふる所によれば蛇、百足、犬、猫、鼠、其他の惡獸に咬まれたるときは梨、柿、錦木の三種の枝を燒き之に酒を掛けて消炭とし細末となしたる後五六匁程の分量を酒にて飲み燒味噌を少し許り食へば傷口癒へ又右三種の葉のみを煎じ用ゆるも効驗ありといふ然れ共之れ果して學說に適し居るや否や研究すべきことなり徒に迷ひて一身を誤まる勿れ

●第一醫院の病室修築

醫科大學附屬第一醫院にても曩きに產科婦人科病室等の燒け失せたるを以て今度法科敎室跡へ右產科婦人科病室を新築し又時計臺下なる大學事務所へ修繕を加へたる上小兒科眼科病室を此處に引移す筈なりといふ、

●監獄と衛生

內務省に於ては囚徒の衛生にも深く注意し各府縣に於ける疾病囚徒の數病症及び其原因等を調査の由なるが數十人合室の獄舍には肺病患者多しといふ之れ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に付けても新鮮の空氣と運動とは相待つて緊要なるものあり、

●類似コレラは傳染病にあらず

類似コレラの病原に就ては當局者は勿論衛生學者間に在りても種々の說ありて該病は傳染病の內に加ふべきものにあらずとの說ありしが元來此病は急性腸胃加答兒にして海外に流行せるコレラとは全く其病原を異にし其原を一種の理學的より發生しては化學的より發生するものにして其勢ひ猖獗を極むるも類似コレラは少しも感染の憂なしとの說大に勢力を得て遂に類似コレラは六傳染病の內にあらすと決したるなり

●虎列刺病

香港の虎軍は我國境に攻め入らんとすはや大坂熊本地方に於ては既に特發するを見る此際注意周密にして一日も其豫防を忽にすべからず去る明治十五年の夏は所としてコレラ病發生せざる處なく市中を歩すれば平日にして十餘の斃死者に遭ふを來したり願くは今夏をして慘毒を流さしむること勿れ

虎列刺病の傳染及豫防法に付き經驗ある外醫の云ふ所を聞くに人間は病氣の種を運搬するものなるが故所々に傳播する所以なるが流行地より來れる人は精密に注意せざるべからず强壯無病の人にても時には三四日間の禁足を要することあり虎列刺病毒發生の時に就ては未だ一定したる說を聞かずと云へども或人は二十四時にて發生すと云ひ又或人は十日若くは十二日間を要すと云ひ時としては二十日間を經たる後發生したる例もあれば故に禁足は二三周間を經ざれば充分其憂ひなしといふべからず日々飲料に供する水の如き疑しきものは必ず煮立てたる後用ゆべし平常使用する水漉の如きは不完全なるもの多きを以て一ヶ月一度つゝは木炭或は砂を洗ひ沸騰にて煮

たる後日光に乾かし總べて清潔にして用ゆべきなり

コレ等は皆御注意が緊要なり

◉ヘルスと牛乳

近刊の牧畜雜誌を見るに醫學博士隈川宗雄氏は前續より引き續きてヘルスと牛乳の優劣を說かれたり其終に曰くヘルスは多量の澱粉を含み加ふるに消化不良なるか故に初生兒の飲料に適せず(一)ヘルス液は百分中僅かに二、五瓦乃至三、三瓦の固形成分を含むのみなるが故に殆んど營養價格を有せざる一の嗜好飲料たるに過ぎず(二)單に養成分の分量を標準としてヘルスの時價を牛乳と比較するときはヘルスは牛乳より高價なること五倍餘なり云々と見へたり

◉齒痛の藥

牡丹餅にあらず……………齒の痛む時は何を用ゐるも中々其功なしといへども此頃遠州の人の實驗せし話ありと云ふを聞くに桑の葉を採みて痛み齒に當て嚙み占め両三回其葉を取り代ふべし然る時はよく其痛みを癒すといふ眞僞はしらず

◉奇妙なる婚姻式

牡丹餅の談に續きて又牡丹餅の一話を記さんに愛媛縣西宇和郡三崎といふ所にては婚姻の席にて三々九度の外には一切酒を用ひず來賓、媒妁人、新婦、新郎の面前に牡丹餅を山の如く積み出し若し一つにても食ひ殘す時は之を儀式知らずと嘲けらるといふサテ〱苦しきことならずや某新聞の記載せるよしかくは記しぬ

◉脚氣病と麥飯

日本人に脚氣症の多きは全く日々食ふところの米飯によるものにして之に代ふるに麥飯を以てし爲めに患者少きに至りし事は實驗によりて明らかなるか本年も陸軍各聯隊にては脚氣豫防の爲め例年の通り米六分麥四分の割合にて麥飯を用ふることになせりと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◉諸會景況

大日本婦人衛生會　去六月十日午後一時より富士見倶樂部に於て常會を開きたり醫學士山根正次君には白粉の鉛分に就て種々實物及分折表等を示し演説せられドクトル飯盛挺造君には衣服の話に就き熱の膨脹より酸素の作用を實驗し醫學士伊東祐彦君には乳兒の育て方と云へる演題にて小兒保育の注意を促し右終りて一同散會せしは午後五時なりしが當日の出席員凡三十餘名なりき

當日　總裁殿下御臨場在らせらるゝの御豫定なりしが御差支にて御臨會御見合せとなりたり

同日醫學士山根正次君より庚寅新誌數部及無害の白粉十餘箱寄附せられたるを以て出席會員に頒ちたり

◉日本赤十字社第七回の總會は去る十七八日上野公園舊博覽會列品館に於て　皇后陛下の臨御を仰ぎ總會を開きしと云ふを聞に會員は午前九時上野へ參着（會員各々徽章を附く一目して其會員たるを知る）準備品を一覽し夫れより擂鉢山下の懸茶屋に於て硝子盃ビール折詰等を請取り各自隨意に之を開き硝子盃は紀念の爲め持ち歸る趣向となし又正社員に限り芝離宮の拜觀を許されしといふ

◉大日本私立衛生會總集會は昨年は仙臺に於て總集會を開きたるが本年は愛知縣名古屋市に於て愈々七月二十一日開會のことに決定したりといふ

◉佛教博愛病院は各宗本山をはじめ諸大德協賛の上神田錦町に設置し去る廿五日其開院式を施行せしが其目的は貧困者を施療するにありといふ

廣告

◉婦人衛生會に於ける六月中の入退轉居左の如し

入會者

◉會員村上れん子の紹介により
第二醫院　永田操子
仝所　村垣かき子
仝所　荒井のぶ子
仝所　中川きく子

◉第二醫院會員田口つる子の紹介により
第二醫院　細野しづ子

◉終身會員鳩山春子の紹介により
麴町區下二番町四十一番地　特別會員　吉武輝枝子

◉評議員河本かめ子の紹介により
京橋區桶町廿五番地　通常會員　山田きく子

◉幹事中野鋭子の紹介により
神田區東龍閑町　通常會員　印東美知子
仝區大和町十八番地　仝　古澤滿壽衛子
麻布區永坂町一番地香蘭女學校仝　磯邊そよ子

◉六月十日例會々塲に於ける入會
神田西小川町二丁目七番地通常會員森村はる子

◉會員内田芳子の紹介により
麻布飯倉狸穴町十番地　通常會員　星野茂尾子

◉評議員榊幸子の紹介により
下谷池端茅町無線坂下　通常會員　根岸かな子

◉土方會長の紹介により
小石川關口臺町二十九番地通常會員　田中ひよ子

轉居

本郷弓町一丁目十八番地へ　三間みわ子
牛込喜久井町五十二番地へ　山村とし子
牛込築土前町十四番地へ　保利こう子
京橋區加賀町八番地へ　進利子
本所區若宮町五十四番地へ　志賀かま子
牛込市谷仲町へ　小鹿島ふで子
藝州佐世保へ　武富すみ子
芝公園地第九號七へ　町田ゑい子
東京府下日暮里村千〇六十六番地へ　高橋登茂子
麴町下二番町二十三番地へ　松田のぶ子
芝西久保神谷町十八番地へ　白川加壽子
本所區向島須崎町百八十一番地へ　大澤さく子

◉改姓　會員森村みち子は阿部みち子と改姓せらる

◉千葉支會會員西村義舞子は哀哉急性心臟痲痺にて死去せられたり

◉退會　小林すゞ子　山田さと子　大舘組緒子

正誤　前號雜誌へ掲載したる入會員石川伊勢子は石井伊勢子の誤り又西田峯尾と記載したるは西田嶺尾子の誤りに付茲に正誤す

●婦人養生舘開設の趣意

館主 産婆 林 鶴 述

夫れ病を養ふに欠可からざる物三あり一に醫薬二に看護三に身神の安静是れなり醫薬は開明の今日都下何れの所にても得るに難からねど看護の事業は本邦婦人中之を解せらるゝものは殆ど之なき様なり去りとて看護婦を招くには一日少くも四五拾錢以上の費用を要すに非ずや此費用を投ずるも家屋手狭にして病室を分離せん事は普通の家には實に難事とす故に轉じて病院に入らんか常に信ずる所の醫士に治を乞の便利を欠く是等不自由を如何にせんと妾玆に感ずる所ありて今度此養生舘を設立す本舘は病有る人の出養生場にして家屋の構造りにも注意したれば空氣の流通よく矮隘ある自宅に臥して養生思ふに任せぬのみかは俗事の耳朶に詢ざるすら病を癒す一端なるが上醫士は各位が信ずる所の先生方に乞て治療を受らるゝ物と定め看護婦の爲可き事柄は妾自ら其任に當り周到綿密と申さんは如何なれど心の及ばん限りは勉可く而て其費用左に記せる通なれば殆んど實費に近くして前に述るが如き不自由を感ずる事なき出養生場あれば病有る婦女方は誰人にもあれ來りて惱みを排け健康を保ち給へと白す

一 養生料 一日 金三十錢より 金五十錢まで

(附)妊婦を扱ふは妾が本分なれば自宅にて分娩爲難き方々入室あらば別して深切叮嚀に取扱ひまをすべし
併せて此事を御吹聴に及びぬ

明治廿六年六月六日開始

東京日本橋區北鞘町二番地

養生舘

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治二十一年二月二十八日内務省許可

新製

玉子入あらひ粉

初かをり

袋入金一錢
別精製 中罐金五錢
麝香入 大罐金拾錢

此あらひ粉は多年の研究と醫學士及び薬學家の説に從ひ蕎麥粉と鷄卵蛋白質を混和し理化學的の機能ある薬品香料を配合したるものなれは第一皮膚の質を細やかにし。色を白くし。艶をよくし。おしろいをつけてむらにならす。にきび。そばかす。手顔のあれを防き髪を洗ひてねばりを去り衣類の垢染は地質をいたますして清潔になる故通常の豆粉洗曹達等にて製造したる品とは大に異なりて他製に類なき佳良の品なり一回御試用の上は美妙なる効驗あるべし

東京市本郷區駒込西片町五番地
製造發賣元 松翠堂 若宮登三郎

明治廿六年七月六日印刷
明治廿六年七月七日發行

東京下谷區練塀町四十三番地 發行所 大日本私立婦人衛生會
東京牛込區矢來町三番地 編輯兼發行者 田中德三郎
仝麹町區上二番町四十三番地 印刷者 八木吉六
仝神田旅籠町貳丁目拾一番地 印刷所 廣業館

明治二十六年四月四日遞信省認可 第一金曜日發行 (定價金十錢)